

帝京学園短期大学の概要

設置者	学校法人 帝京学園
理事長名	冲永 莊八
学長名	冲永 莊八
ALO	三井 正人
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	山梨県北杜市小淵沢町615-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育科		100
	合計	100

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

帝京学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成22年3月18日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成20年6月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は昭和42年幼児教育指導者の養成を目的とし、山梨帝京短期大学として設立された。その後平成元年に帝京学園短期大学に校名変更された。

建学の精神（「努力」、「幅広い知識」、「実学」、「国際的視野」）、教育理念共に確立しており、受験生から学生・教職員に対して多様なメディアにより明示されている。教育目的・目標は明確にされており、その内容は教育活動に反映され、その活動の結果に関し点検・評価の手続きも適切に実施されている。教授会、理事会等においても審議検討するなど、全学的に教育目的・目標の共有化が図られている。

教育の内容については、立地条件を生かした科目を設定するなど、特色ある教育がなされている。幼児教育者の養成という専門性の高いカリキュラムの中で、多様な学生のニーズにこたえるべく、種々の資格のためのカリキュラムを編成している。

シラバスに若干の課題はあるものの、シラバスに応じた関係図書が整備されていることは好ましい。

教育の実施体制では、教員数は短期大学設置基準を充足しており、年齢構成のバランスも適正である。教職員は種々多忙な中、就職率の高さ、地域貢献など実績をあげている。校地・校舎面積も短期大学設置基準を充足しており、学生は学生ホール、学生食堂、情報室など快適な環境の中で学生生活を送っている。図書館は整備されており、蔵書数、AV資料数、座席数は在籍学生数に対し適当である。

入学試験についての情報は様々なメディアを通じて十分に公開されており、入学前教育としての補習授業等も着実に実施されている。また、学生の学習上の問題・悩みなどについて、グループ担当制により全教職員が連携するなどの体制がとられている。進路支援については、就職率が高い水準で推移している。また就職後のケアに積極的に取り組み、就職担当者が毎年5月に卒業生の就職先を訪ね、本人及び採用者側と面談しており、学生支援体制は整っている。

研究については、「実学」を建学の精神とする立場から、教員グループによる「子育て支援研究会」が組織され、山梨県や北杜市などと連携し、子育てに関する研究や実践等、優れた活動を行い地域とのかかわりで成果をあげている。また、学生たちの地域貢献やボランティア活動なども積極的に推奨され、活発な活動がされている。

管理運営については寄附行為に基づき理事会・評議員会の開催、監事の業務など学校法人の管理運営はもとより教授会や委員会等の運営は適切に行われている。学長は副学長と連携し短期大学運営に努めている。中・長期の事業計画が策定されており、それに基づく年次の予算・決算は理事会や評議員会及び監事等の関与の下に適切に行われている。

財務については定員未充足・支出超過・財務三表の公開について課題を残している。

改革・改善については自己点検・評価委員会規程も整備され、その活動の実施体制は整い全教職員が参画するなど、全体として適切・良好な運営がなされている。学生定員管理・施設整備など将来計画に沿って着実に整備されるよう期待される。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 八ヶ岳山麓という自然環境に恵まれた立地条件を生かし、特色あるカリキュラムが開かれている。例えば、「自然観察」の科目では実際に自然の中で、観察や調査などの実習を行っている。また「体育実技」では乗馬やスケートを体験するなど、教育理念に掲げる「学生の個性と可能性を伸ばす」実学教育が行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 保育科単科の短期大学の附属図書館として、関連資料の収集に努め、新たに「絵本室」を設けるなど学生の要望にこたえ、環境整備を図っている。また、シラバスに掲載された参考書は、図書館の授業担当教員の推薦図書棚に並べられるなど、学生の利用しやす

いように配慮されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 幼稚園、保育所、施設等、専門職への就職率が高い。このことと関連して、卒業後のケアに積極的に取り組み、就職担当者が毎年5月に就職先を訪ね、卒業生本人や採用者に会い面談をしている。また、卒業後10ヶ月目には卒業生にアンケートを送り、職場での現況の報告を求めるとともに、学生時代の教育活動を尋ね、その意見を授業改善に活用しており、このケア活動等が高い専門職への就職率につながっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 毎年開催される学園祭（紅葉祭）では、地域の子供たちを招き、親しい交流が行われている。その中で学生たちが行なう人形劇やオペレッタ、紙芝居の公演は学園あげてのイベントであり、地域にも好評である。
- 当該短期大学は就職支援のために、保育所、幼稚園、施設等それぞれの園長をキャリア・アドバイザーとして毎年招聘し、「保育現場が求める人材」等の講演を開催している。この講演は、学生たちの就職に対する的確なアドバイスとなるもので、優れた支援である。

評価領域Ⅵ 研究

- 専任教員グループが「子育て支援研究会」を発足させ、地域に根ざした子育て支援についての研究とその実践を行っている。これは平成18年から3ヶ年間、山梨県の「やまなし子育て支援地域モデル事業」にも採択され、以後も活動を継続している。この研究とその実践活動は教員同士の啓発のみならず、地域に深く根ざしている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生たちの社会的活動は有意義な学習体験としてとらえ、積極的に押し進めており、その成果は、公立図書館等での「オリジナル紙芝居」の上演や、NPO法人「ちびっこはうす」主催の「子育てサークルフェスティバル」への協力などがあげられる。

（2）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスは学生が受講前にその科目について授業内容や評価基準を全体として知ることのできる資料であり、学生の理解に必ずや詳細に書かれることが望ましい。

シラバスには、授業のねらいや目標を記載した方がよい。また「学生生活ハンドブック」に掲載されている講義内容をシラバスにも載せるなどの工夫が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 過去（平成 14 年度～平成 18 年度）に、短期ではあるが海外教育機関（アメリカ・帝京ロレッツハイツ、イギリス・帝京ロンドン学園等）への学生派遣の実績があったが、平成 19 年以降、希望者減のために派遣は途絶えたままになっている。今後、建学の精神や教育方針にある「国際的視野」を養うためにも、学生の海外派遣を検討されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 短期大学運営において重要な役割を果たしている副学長の職務や選任など学則への追加の表記を含め、副学長に関する規程の整備が望まれる。
- 管理運営を適切に進めるに当たり、就業規則や給与規程などを実情に合わせるとともに、文言整理や具体的内容の表記を追加するなど規程集の整備が求められる。

評価領域Ⅸ 財務

- 入学定員及び収容定員の未充足により消費支出超過の状況になっており、平成 22 年度から予定している入学定員の削減、学生募集活動の強化、教育環境の整備、借入金の長期返済計画を着実に実施し、支出超過が累積しないよう適切な財務計画による学校法人全体・短期大学部門の財務状況の改善が求められる。また、学校法人全体の財務運営を向上、充実し、将来的な財政上の課題に計画的に対応することが望まれる。
- 公開を義務付けられた財務書類に関しては当該短期大学の所在地においても閲覧に供さなければならず、財務情報は刊行物への掲載やインターネットの活用などにより積極的に提供していくことが望まれる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神（「努力」、「幅広い知識」、「実学」、「国際的視野」）、教育理念（「学生の個性と可能性を伸ばすこと」）共に確立し、明確になっており、多様なメディアを通して公開し受験生から学生・教職員に対して種々印刷物により明示されている。

教育目的・目標は明確であり、その内容は教育活動に反映され、その活動の結果に関し点検・評価の手続き（「帝京学園短期大学 短期大学評価委員会」に提案・審議）も適切に実施されている。

教授会、理事会等においても審議検討するなど、全学的に教育目的・目標の共有化が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神を踏まえ、立地条件を生かした科目を設定するなど、特色ある教育が行われている。幼児教育者の養成という専門性の高いカリキュラムの中で、多様な学生のニーズにこたえるべく、児童厚生二級指導員資格、自然観察リーダー資格、またピアヘルパー受験資格のためのカリキュラムを開設している。

入学時にシラバス、学生生活ハンドブックが配布され、年度当初のオリエンテーションで説明されるが、シラバスに授業のねらい・目標や講義内容を記載するなど、より一層の充実が望まれる。

学期末ごとに学生による授業アンケートが行われ、教員はフィードバックされた集計にコメントを付けて「シラバス検討委員会」に提出するなど、教員の授業改善の努力がみら

れる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準を充足しており、年齢構成のバランスも適正である。教員は教育活動に多忙な中、意欲的に研究に励み実績をあげている。

校地・校舎面積共に短期大学設置基準を充足している。学生は学生ホール、学生食堂、情報室などの施設で自由にくつろぐことができ、快適な環境の中で学生生活を送っている。

図書館は整備されており、蔵書数、AV資料数、座席数は在籍学生数に対し適当である。幼児教育関連の図書資料の収集に努め、新たに「絵本室」を設けるなど学習環境の整備は評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

「シラバス検討委員会」の下で、学生側に立った授業の見直しを行っている。各教員は授業アンケートにより学生の満足度を知ることができ、学生の意見を授業改善に活用している。

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格共に高い習得率であり、自然観察リーダー資格、児童厚生二級指導員資格、ピアヘルパー受験資格の取得ができるなど多様な学生のニーズにこたえている。

保育関係の養成校として卒業生の専門職への高い就職率となっている。就職後のケアに積極的に取り組み、就職担当者が毎年5月に卒業生の就職先を訪ね、本人及び採用者側と面談している。また卒業後10ヶ月目に卒業生にアンケートを依頼し、その後の指導の改善に活用している。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学試験についての情報は様々なメディアを通じて十分に公開されており、入学前教育としての補習授業等も着実に実施されている。年度当初には3日間のオリエンテーションが実施され、シラバスや学生生活ハンドブックも配布されている。また学生の学習上の問題・悩みなどについて、グループ担当制により全教職員が連携して対応するなど、学習支援は堅実に行われている。

キャンパス・アメニティはおおむね良好であり、学生たちは活気に満ちている。進路支援については、就職率が過去3ヶ年高い水準で推移しており、評価できる。多様な学生に対する支援は、社会人学生はここ3ヶ年で5名の実績があるが、留学生、障がい者、長期履修学生の受け入れ実績はなく、今後、支援体制の整備が求められる。

評価領域Ⅵ 研究

専任教員の研究業績（平成 18 年度～平成 20 年度）は、著作数 19、論文 30、学会発表 26、その他 50 と活発な状況にある。その成果は研究紀要や短期大学のウェブサイトで紹介している。また教員グループによる「子育て支援研究会」が組織され、山梨県や北杜市の支援事業や子育て支援グループなどと連携し、子育てに関する研究や実践等、優れた活動を行っている。

研究活動のための条件整備であるが、「研究経費支給規定」や就業規則により、教員の研究費や時間的余裕は確保されている。また教員に対する備品や研究室の整備であるが、専任教員には個室の付与、及びパソコン等の備品も常備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学は「実学」を建学の精神とする立場から、地域において社会的活動を積極的に展開している。例えば、地域とのかかわりで成果をあげている「子育て支援研究所」の立ち上げ、また生涯学習授業や正規授業の公開、子育てに関する講演会等であるが、これらの活動を通じ、教育活動による地元への還元や地域・住民との交流に務めている。

また、学生たちの地域貢献やボランティア活動なども積極的に推奨しており、その活動は公立図書館等での「オリジナル紙芝居」の上演や、NPO 法人「ちびっこはうす」主催の「子育てサークルフェスティバル」への協力など広範囲に及ぶ。

一方、国際交流であるが、過去において学生たちの短期留学（平成 14 年度～平成 18 年度）があるものの、平成 19 年度以降は、希望者減のため見送られている。留学生の派遣や教職員の海外派遣については、教育方針に「国際的視野」の涵養とうたわれていることから、今後積極的な取り組みを期待したい。

評価領域Ⅷ 管理運営

寄附行為に基づき理事会・評議員会の開催、監事の業務など、コンパクトな組織体の特性を生かしつつ、学校法人の管理運営は適切に行われている。

当該短期大学は各部署の教職員が協働し業務を遂行しており、教授会や委員会等の運営は適切に行われている。教職員は情報共有をし、より良い短期大学運営のために相互に協力して教育活動に当たっており、教職員の連携は極めて良好である。

学長は副学長と連携し、企画・課題等を提起しているが、短期大学運営において重要な役割を果たしている副学長の職務や選任などが学則を始め関係規程に定められていない。

事務組織の運営に関する規程は整っており、決済処理の流れや重要書類の管理も適切で、事務組織は整備されている。ただ、一部の規程において、文言等が統一されておらず、また執行上具体性にかける内容になっている。

評価領域IX 財務

中・長期の事業計画が策定されており、それに基づく年次の予算・決算は理事会や評議員会及び監事等の関与の下に適切に行われている。経理規程は整備されており、予算の執行及び財務の流れは適切である。ただし、短期大学所在地においては、財務情報は閲覧できず、広報誌等の刊行物への掲載やインターネットの活用等はない。

消費収支計算書関係比率からみる短期大学の経営状況はおおむね良好であったが、平成19年度以降定員未充足により、悪化の兆候が出てきている。財務三表等の概要から判断して、消費収支の均衡が崩れており、蓄積された運用資産より総負債が上回る傾向にあり、財政上の余裕度は少なくなっている。

平成22年度から予定している入学定員の削減、学生募集活動の強化、教育環境の整備、借入金の長期返済計画を着実に実施し、支出超過が累積しないよう適切な財務計画による学校法人全体・短期大学部門の財務状況の改善が望まれる。

教育研究用の施設設備に関する各種台帳類は適切に管理されており、防災や避難訓練等の危機管理対策や省資源対策への配慮もなされている。大地震に備えた避難訓練を実施しており、建築物の耐震診断・補強など地震対策については十分な配慮がみられる。

評価領域X 改革・改善

学生定員充足率など今後改善すべき課題がある。そうした中で自己点検・評価委員会の規程も整備され、積極的に取り組んでいる。

教育内容や短期大学運営について、全教職員が点検項目を定め、アンケート調査などを実施し、より良い教育環境の改善に努めている。自己点検・評価委員会に全教職員が参画していることを踏まえれば、今後の改革・改善の成果が期待できる。

なお、実習及び就職に係る関係機関より学生への講演や教員との懇談会・協議会を定期的に行うことにより（外部評価の一つ）、教育環境の整備や改善に取り組んでいる。

相互評価は未実施であるが、今後、実施することとしている。